

# 野球

## 今、三部リーグが熱い！ 頭一つ抜け出たか！ 花園サミッツ6勝1分けで首位をキープ！ 〜リアル三刀流・宮原原選手の活躍光る！〜

千葉県野球協の‘21年シーズンは順調に試合を消化、既に9試合を消化したチームも。そんな中トップを走る「花園サミッツ」と2番手「テレク」の試合が6月27日・古市場球場で開催されました。



優勝も見えてきた？  
花園サミッツ



3対0で勝ちに行った  
テレク

試合開始前に両チームキャプテンにインタビュー。「相手にとって不足はないですね。3-0で勝ちに行きます。」と、老練なテレク齋藤監督。一方、若さと勢いの花園・富ヶ浦キャプテン「うちも勝ちに行きますよ。」と、こちらも一歩も譲らぬ姿勢。

前の試合が若干伸び、先行：花園サミッツ、後攻：テレクで午前10時40分プレーボール。

1回表、テレクの先発・丹波投手の低めに決まる速球に花園の打者は2三振、ショートゴロであっという間にスリーアウト。

その裏、テレクの攻撃。花園先発・宮原投手の速球にややてこずったか凡打を重ねこちらも簡単にスリーアウト。

2回表、花園の各打者は丹波投手が投げ込む球筋が真ん中に来るのを見逃さず集中打であっという間に2点先取。しかし、テレクもすかさず2回裏の攻撃で同点に追いつく。



丹波投手第1球は？  
野球協リーグ戦（古市場）

乱打戦の可能性もみえてきた3回表の花園は、先頭打者がヒットで出塁、続く打者が連続ヒット、次打者へのパスボールにすかさず進塁し2・3塁のチャンスに次打者が四球を選び無死満塁の好機を迎え、ここで先月の試合でランニングホームランをかつ飛ばした宮原選手の打席。宮原選手は真ん中低めの速球を救い上げ見事期待に応え満塁ホームランをかつ飛ばした。

その後も攻撃の手を緩めず内野守備の乱れもあり 新規加盟の敬愛大学チーム 無死1・2塁のチャンスを掴んだものの6-4-3のダブルプレー、内野ゴロでスリーアウト。

テレクは4回から先発・丹波投手から軟投派の幸田投手に交代。その後の花園の各打者は幸田投手のコーナーを投げ分ける投球にフライアウトに打ち取られ追加点が取れず。

一方、テレクの打者にはヒット性の当たりは出るものの、花園の堅い守備、特にライトのファインプレー等に阻まれ本塁は遠くなる。

最終回となった6回表裏はお互いに無得点。12時22分、両軍の熱い戦いにゲームセット。

これで花園の戦績は6勝1分けで首位キープ。テレクは5勝2敗1分けとなり一歩後退か？ 因みに三部の他のチーム成績は、Brothers6勝3敗、FCが5勝1敗となり俄然花園の3部優勝の可能性が高まりました。

試合終了後のインタビューで齋藤監督は「若さにやられましたね。」と花園の勝利に脱帽。花園・富ヶ浦キャプテン「今日の勝利は（最終回ピンチヒッターヒットで出塁した）私と宮原の二人ですね。」と自分をアピールすることも忘れていませんでした。今後も花園の試合から目が離せません。

